

## 第1回別府市協働のまちづくり推進委員会 議事録

日 時：令和元年11月5日（火） 10時～

場 所：市役所1階 レセプションホール

出席者：【協働のまちづくり推進委員会委員】

彌田委員、藤井委員、福谷委員、平石委員、大塚委員、西委員、上里委員、  
内田委員、手束委員

【事務局（自治振興課）】

山内課長、岡崎補佐

欠席者：【協働のまちづくり推進委員会委員】

中山委員

委員会内容

### ●議事概略

#### 1 委員長・副委員長選出

事務局提案により、委員長は福谷委員、副委員長は内田委員に決定。

#### 2 議題

##### (1) 別府市協働のまちづくりについて

別府市が進める協働のまちづくりについて事務局より説明。

##### ・これまでの経緯

自治振興課協働推進室設置以降の経過を報告。

別府市協働指針策定、別府市協働のまちづくり推進条例施行、別府市協働のまちづくり推進委員会設置、ひとまもり・まちまもり自治区形成事業開始

##### ・別府市協働のまちづくり推進委員会について

別府市協働のまちづくり推進条例に基づき設置された委員会であり、主に「施策の評価及び市長への報告」「市長の諮問に応じた重要事項の調査審議及び市長への答申」を行う。

##### ・協働の推進

協働指針及び条例に基づき、別府市における「協働とは」と「協働を推進していくための基本方針」について説明。

##### (2) 取組みについて

協働のまちづくりに向けて、自治振興課協働推進室における取組み及び実績を報告した。

##### ◇ひとまもり・まちまもり自治区形成事業

##### ・中規模多機能自治の形成に向けた取組み

市内の地域包括支援センターの配置にあわせた7つの自治区において、自治機能を維持する中規模多機能自治の実現をめざす。

##### ・中規模多機能自治区（ひとまもり・まちまもり自治区）の形成に向けた支援

財政的支援 … ひとまもり・まちまもり自治区形成事業補助金

人的支援 … 担当職員を配置し、運営を支援

市職員のボランティア組織「地域応援隊」による地域活動への参加

・これまでの動き

5つのひとまもり・まちまもり協議会設立（令和元年11月1日現在）

地域応援隊に関する報告

◇市民活動支援補助金制度

地域の課題解決のための公益的な活動を対象とし、団体の組織強化や人材育成、学生団体も含めた市民活動の促進、活性化を図ることを目的に、令和元年度に新設した制度。概要及び交付決定事業について報告した。

(3) 今後の予定

・年度内に第2回委員会開催予定

・新採用職員研修、協働推進員対象研修の実施（11月11日、12日）

・地域応援隊と地域との意見交換会

## ●質疑応答・意見等概要

(委員長)

新しい委員の方には抽象的でわかりにくいかとは思いますが、配布しています協働指針や条例、ひとまもり・まちまもり事業等をご一読・復習していただきたい。困った問題をすべて行政に依頼して解決してもらおうという従来の体制を改め、協働を推進して、それぞれの地域の中で地域の問題を直接解決していく体制にしていくというものです。そのため、行政と地域の間に入ってもらうNPO法人などや地域に設立されつつある協議会などが重要で具体的な姿となります。詳細な部分については、今後の委員会の中で徐々に協議を進めていきたいと考えています。

(委員長)

7自治区のうち、2自治区が協議会設立に至っていません。事務局はどのように考えていますか。

(事務局)

市ではまず自治会内で協働への理解を深めていただき、そこに多様な団体を加え協議会が設立されることを目指しています。設立ができていない原因としては、旧小学校区内、自治区内における協働に対する理解の温度差や認知度の差、話し合いの機会の少なさがあると思います。まずは各自治区での協働への理解促進を図っているため、市も地域における協議の場に加わり、事業の説明を行い、話し合いを進めているところです。徐々に協議会設立への動きも見られるのではないかと考えています。

(委員長)

協働の仕組みそのものに反対する人はいないと思います。これまで小さなブロックで

あったものを中規模にしていく、そして住民のさまざまな要求や課題に応えられる仕組みになっています。

協議会の会長である委員に伺いたいのですが、協議会を設立し、うまく取り組めている背景はありますか。

(委員)

自治会が基盤となっているところにつまずきがあるのではないかと考えています。変化を好まない高齢の方が自治会長になっていることが多いからです。幅を広げて連携していこうとすると、自分の意識を変えなければいけません。協働を進めるためにターゲットとなるのは若い世代だと思います。まず、自治会の理解を得て、各組織団体と部会を作り、事業ごとに実行委員会を設け、実働する働き世代の協力を得ました。学校やPTAの協力を得ることは大変重要です。自治会役員の高齢化が進む中で、地域が一体となるためには、異世代間の意思疎通と、地域活性化への意識を高めることも必要です。若い世代は比較的協力してくれます。今後はそういった世代をいかに増やすかが課題だと思っています。別府は川を挟んで、地域によっては民意や思考が異なることもあり、排他的な面があることも課題だと思っています。「ONE TEAM別府」へ向かっていくべきです。

(委員)

PTAの方など若い世代における認知度ですが、私の地域ではこの事業は認知されていないと感じています。私の住んでいる地域の高齢化率は低いですが、むしろその方が協議会は設置しにくいのではないとも思います。自助、共助、公助の考え方でいくと、ひとまもり・まちまもりは「共助」です。共助が進んでいく地域というのは、自助がまずしっかりできているところだと思います。ひとり親世帯や共働き世帯が多いため、自治会から声をかけても若い方が集まりにくい現状が見られます。また仕事の時間帯が遅い世帯も多く、昼間は休まれている方も少なくありません。その点で、小中学校やPTAにおいても保護者の協力が少ないという点が課題となっています。私の地域では、こうした課題をどう改善・解決していくのかを考えていながら、協議会設置については慎重に進めていくことがいいのではと思います。

(委員)

何事においても準備段階がとても大変で、協議会も立ち上がる過程が重要だと感じています。周知や組織体系づくりなどです。この事業に反対する人はいないかと思いますが、その中身が問題です。私の所属する協議会は、昨年設立されましたが、まず形（体系）を作って、取り組んでいくうちに中身を整えていこうということで始まっていますが、なかなか組織強化が進みません。実際、協議会を運営しているのがごく一部の役員だけで、他の協議会の会員たちへの周知がそのあとになっています。組織構成（部会など）をしっかり決めておくことが必要です。その部分がしっかりしていないと、役員以外の方は当事者である意識が薄く、建設的に会議が進行しない状況になります。協議会内での透明化・役割の分担化が重要で、組織体系をしっかり構成しておかないといけなと感じます。

(委員長)

世代間の認識のずれについてはどうお考えですか。

(委員)

世代によつての認識不足という面もありますが、市や協議会からの周知の方法についても検討は必要だと思います。

(委員長)

地域にとっては、協議会という組織がある、という程度の認識が現実であつて、参加して良かったという積み重ねがないと実体として捉えにくいものです。

(委員)

自治振興課の進めているひとまもり・まちまもり自治区形成事業での「協議会」や、高齢者福祉課が進めている生活支援体制整備事業である「協議体」など、地域づくりを進める上で話し合いをしていくにあたっては、自治会の協力が不可欠です。ただ、参加いただく方が同じである場合が多く見受けられます。そうした様々な会議が市において存在するため、地域の方も事業を理解するにも出席されるにも大変です。統一した「まちづくり」の会議の中で、ひとまもり・まちまもりや福祉など各分野に分けることができるのではないかと感じています。

(委員)

まずは認識されないと先に進みません。PTAは、その数だけでも生徒や保護者、祖父母がいるなど、大きなコミュニティです。そういったコミュニティの軸である方々を通じて、紙媒体でもいいので周知・啓発することがとても有効だと思います。そのためにも地域の問題を吸い上げる仕組みづくりが先決です。各コミュニティでの話し合いの場をつくることも、ひとまもり・まちまもりに繋がっていくと思います。まずは周知する方法を考えることが大切ではないでしょうか。

(委員長)

協議会のイメージは資料にあるように、自治会やPTA、地区社協、子ども会など多様な団体が構成され、その中で地域の問題解決についての議論が進むことが理想ですが、そこまで至っていないのが現状です。市報等の広報媒体を活用して周知する努力はしているものの、紙媒体で情報を得る人が少ないのも事実です。スマートフォンなどを利用した別の周知方法も考えなければいけないかもしれません。

(副委員長)

平成29年度にこの事業が始まり、かなり早いテンポで進んでいると思います。温度差がある中で、資料にあるような様々な団体が関係する「協議会」の形成はこれからであり、

少しずつ地域の課題を解決する組織へ育っていきと考えています。温度差、認知度の差はあって当たり前かもしれません。将来を見据えて、今後、委員みなさまの意見をいただきながら協働が進んでいくと思います。

(委員)

今日の委員会で、協働への課題が確認できました。委員会の開催回数が少ないようですので、その間の具体的な事業や経過等の情報提供をしていただきたいと思います。周知の方法ですが、顔の見える関係が薄れている現在では、市報のような紙媒体での周知は難しいかもしれません。ただ、子育てをしている女性や若い世代の方も情報が欲しくないわけではない。課題を持ち、解決方法を探している人たちと、地域や協議会をつなぐ手法や情報提供の方法について検討が必要だと感じました。

(副委員長)

この事業に限らず、行政としてみなさんにお知らせするというのは課題の一つです。現在、別府市LINE公式アカウントを開設するという取組みを新たに始めたところでもあります。私もいろいろな地域のコミュニティ組織に参画してきて感じるのですが、イベントでは様々な団体や住民たちがつながるのですが、イベントを離れるとそのつながりが途絶えてしまう。協議会が立ち上がりその中に入れば、そこに参画している団体それぞれの地域の課題が見えてきて、その中で課題の緊急性や重要性が見えてくる、常につながる、という将来像がそこにあると思っています。また、市民活動支援補助金については、この補助金をきっかけに、市民活動団体等が組織強化され、この協議会や市の協働へ専門的知識や問題解決の糸口を提供してくれる位置づけのものになってくれることを期待しています。

(委員長)

初めての会議だったため基本的な部分の説明が中心でしたが、今後は市が取り組む事業の評価などの協議もお願いすることとなりますので、委員みなさんの活発なご意見をお願いします。以上で議事を終了します。